



発行 真言宗豊山派  
北田山宝泉寺  
所沢市北岩岡130  
編集 色摩真琴

## 涅槃図と猫 行田市 天祥寺

春もここまで進むと輝いていた福寿草もすっかり色あせてしまいました。

2月15日、「さきたま古墳群」の一角にある天祥寺という臨済宗のお寺を訪ねました。なぜかといいますと、釈迦ねはんず涅槃図の拝観でした。この日はお釈迦様が入滅された日で多くの寺院で涅槃図が掲げられ涅槃会が営まれます。残念ながら宝泉寺にはなくそれを意識してご本尊に向かうだけです。涅槃とは、サンスクリット語で「ニルヴァーナ」といい「吹き消すこと」を意味します。煩惱の炎を吹き消し、さとりを開いた状態のことで、究極的な安心の境地をあらわし、釈尊の入滅をさすことばとしても使われています。そして涅槃図には、釈尊が右脇を下にして横たわり、周囲には仏弟子をはじめ鬼神、動物など森羅万象ごとくが嘆き悲しむようすが描かれています。

さて天祥寺、先月のある日、新聞に涅槃図公開が知らされておりました。実はこちらの涅槃図はちょっと珍しい図なのです。一般に嘆き悲しむ動物たちの中に猫はいないのですが、こちらの絵に

は描かれています。珍しいとはいえ全国的にはいくつかあるようで、近くで拝観できるいい機会と出かけたわけです。大きな涅槃図の右下に丸くうずくまる三毛猫が確かに描かれていました。

ではなぜ猫が描かれなかったかという十二支のいわれや、猫はお釈迦様の使いであるネズミを食べたからなどがあげられ、描かれた理由として絵師と猫の関係などが伝えられています。しかしこちらの図のいわれはわからないとのことでした。

ところで天祥寺。新聞記事によると「行田忍城藩主、松平家の菩提寺はもともと三重県にあったが国替えによって江戸末期、忍藩おしに移転。そして忍藩最後の藩主、松平忠明が埼玉の地に創建した。しかし明治維新以降は廃寺同然となっていて、30年ほど前、同寺の本山がある京都・天祥院から縁あって前任職が「仏様への最後のご奉公」と、再建に取り組んだ。無住時代に寺の宝物である歴代藩主像などは散逸していたが、巨大な涅槃図は処分を免れ、敷地内の小屋に眠っていたと

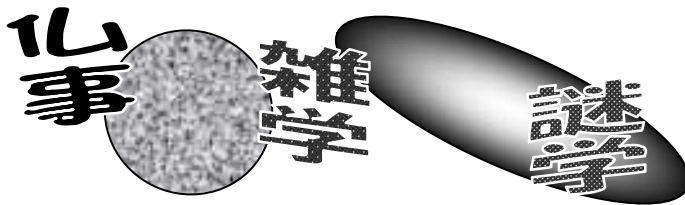
いう。修復を終えて14年前から公開が始まった」とあります。

廃仏毀釈という巨大な歴史の波にさらされた寺院だったのでしょ。とくに藩主の菩提寺ともなれば一般の檀家はなし、廃藩置県を機に空中分解をしたようなものです。

実は無住時代、30年前ときいて宝泉寺のことを思い比べていました。ほとんど同じ時期に新たなスタート迎えたお

寺があったのです。私どもの宝泉寺は時の権力や有力者の庇護ではなく一般大衆のお寺で、少ない檀徒の労力と知恵で護持されてきました。

一方天祥寺は権力構造に組み込まれたお寺ただけに、歴史に翻弄させられたのだと思います。「巨大な涅槃図は処分を逃れ」とありますが、大きすぎて買い手がつかなかった(住職の弁)のが真相らしい。



《霊柩車を見たら親指を隠す。

隠さないと親の死に目に会えない》

こんな言い伝えがあります。今では忘れられていることかもしれませんが、我が家では子育てのさなか、このような会話があったのを記憶しています。これからの時期はご家族で行楽や外出なども多い時期、道中の話題にどうでしょうか。

お葬式で霊柩車は象徴的なものなのでこういわれるようですが、元は「葬式(列)を見たら親指を隠す」だったのでしょ。ではなぜでしょうか。実は古くから親指の先は霊的なものや悪いものが入り出す特別な場所と考えられてきました。昔は夜道を歩くときは親指を握れば狐にだまされないなどもあり、お葬式の「死」の影響を避けたいとする心情のあらわれと思われる。

国立民族博物館 常光先生(談)

親指 「親」の死に目に・・・の連想ではないかと思いますが「馬鹿らしい」「迷信だ」と思ってしまうかもしれません。

しかし一方「生と死」には文化や科学では説明のつかない大宇宙の大いなる神秘に畏敬・畏怖の念が込められている(るり光97号)ことも思い起こすべきです。古い日本人の心の奥をうかがい知ることができて興味深い。

ほかに

- ・ 霊柩車を見ると縁起がよい  
墓へ行く 八力行く 仕事がかどる
- ・ 追い越し、同じ方向はダメ、すれ違いはいい。

車に関する事で面白いものに

「佐川急便の飛脚の絵を触ると願いがかなう」

飛脚に思いを託すことでしょうか、こまでくると微笑ましい。(JAF誌より)

# 響愛 HIBIKIAI

朱鷺メッセ 新潟市

「<sup>じゅうじゅうたいもう</sup>重々帝網」。空海上人がのこした言葉の一つです。帝網とは、帝釈天が住んでいる宮殿に飾り付けられた、無数の宝石をまとった金銀の網のことを指します。網を彩るたくさんの宝石は自ら輝きを放ちます。そしてその輝きを受けて、他の宝石は輝きを増し、さらにその輝きを受けてまた違う宝石も・・・と、宝石たちは互いに互いを輝かせ合いながら（重々）見事な光の渦を構成すると伝えられています。大師は、その様子をこの人間社会に例えました。つまり私たちは何気ない日常の中でお互いを輝かせ合っていて、だから世界は明るく、この世にあるものはすべからく尊いと説いたのです。

3月13日。新潟朱鷺メッセ。約4000人の聴衆の中、300人の僧侶。黒人和太鼓奏者アート・リー氏。中国の聴覚障害者パフォーマンス集団「千手観音」。アメリカのゴスペル隊（キリスト教聖歌隊）による「響愛（ひびきあい）」と銘打たれたコンサートが開催されました。

もともと、真言宗豊山派仏教青年会創立50周年記念事業として発足したこのイベントは、新潟復興支援を大目的に据え、加えて人種と宗教というとても大きな垣根を取り払うことによって、人類全体としての素晴らしさを再確認しようとして催されたものです。

私も微力ながら太鼓隊の一員として、

前日に会場入りし、会場の設営、音合わせ、本番、そして後かたづけとお手伝いをして参りました。ゴスペル隊の音楽にあわせて般若心経を唱えてみたり、千手観音とゴスペル隊が同じステージでパフォーマンスを行ったり、その文化が本来持つ魅力が異文化と交じりあうことによって何倍にも増幅している、そんな光景を参加者として目の当たりにできたことは言葉には表し難い感動でした。イベント名である「響愛」は響き合いをもじったものですが、あのとき会場の中では多くの個が響き合い、輝き合い、ただ一つの全体を作っていたことでしょう。



今回のイベントで得たお互いがお互いを輝かせ合う、大師がいうところの「重々帝網」の感覚を、今度は実生活で味わえるよう日々をおくっていきたい。あれから5日ほどたった今、そんなことを考えています。（了）



映画「空海」のことはり光4号(昭和59年)でも紹介しており、何人ものお檀家の方にも見ていただいた映画です。その映画のDVD版がこの春発売になりました。割引注文ができる申込書がありますのでご希望の方は宝泉寺までお申し出ください。

主演、北大路欣也、ほかに丹波哲郎、森繁久弥など名優が名を連ねています。

この年は弘法大師1150年のご遠忌の年、全真言宗あげて記念の行事が全国で行われた年でした。

この映画は全真言宗の仏教青年会が総力を挙げて製作したもので当時は私もそのメンバー、懐かしく思い出しています。宝泉寺では新四国奥多摩88カ所のお大師様が勧請され、道路沿いに塀ができた年です。

第10回 宝泉寺大般若会  
平成20年5月31日(土曜日)  
午後2時

いよいよ10回目の大般若となり、あの喜びからもう10年か感慨深いものがあります。そして昨年までの新盆供養で経典600巻が新調され、お一人お一人の施主名が巻末に墨書されました。

詳細のご案内は5月初旬の予定、近隣ご寺院様のご助法をお願いし、心を尽くして皆様のご祈願をお祈り申し上げる所存です。

NPO法人

## 颯の扉バザー

3月20日 10時~4時  
宝泉寺境内

毎回お中日にお邪魔させていただきますことお礼申し上げます。

自立支援法のなかで厳しい運営を余儀なくされており、賛助会員としてご協力もお受けしています。皆様の励ましやご理解が何よりの発奮材料になっております。

当日は挽き立てのコーヒーを用意してお待ちいたします。

## 編集後記

・101号をお届けします。思い切って横書きにしてみました。いかがでしょう。今までとは要領が違いめんくらうことしきり、しばらくは試行錯誤が必要のようです。

・豊山派仏教青年会は創立50周年、私が入会したのは10周年記念の年でした。有楽町、読売ホールで若き日の梅原猛先生の講演があり裏方として参加したことをいまでも忘れません。

・自衛隊「イージス艦」衝突事故、最新鋭の艦船でも操作するのは人間、やっぱり必要なのは人間力だなとつくづく思います。

・中国餃子農薬事件、安いのが一番と中国製品が入っていますが、こんどは国産餃子の皮やニラが売れ、値上がりだとか、ちょっと軽すぎではないですか、といいたくなります。国産野菜が注目されていますがまだ価格には反映されていないといい、安心して農業ができるようにならないと。食糧危機のほうがはるかにこわい。

(琴) Mar.16.2008